


研究開発をめぐる
公共的コミュニケーションについて



科学コミュニケーション研究所


2020年2月

公共的コミュニケーションの意義とは



実体的視点

- ▶ 価値観に依存する課題に社会の意見を反映させることで、紛争を回避し、共創を促進できる。
- ▶ 特定のコミュニティに閉じた生活知・専門知（ローカルナレッジ）を、問題解決に活用できる。
- ▶ 一般論としてではなく、歴史的、社会的文脈に沿った実効性のある解を導くことができる。

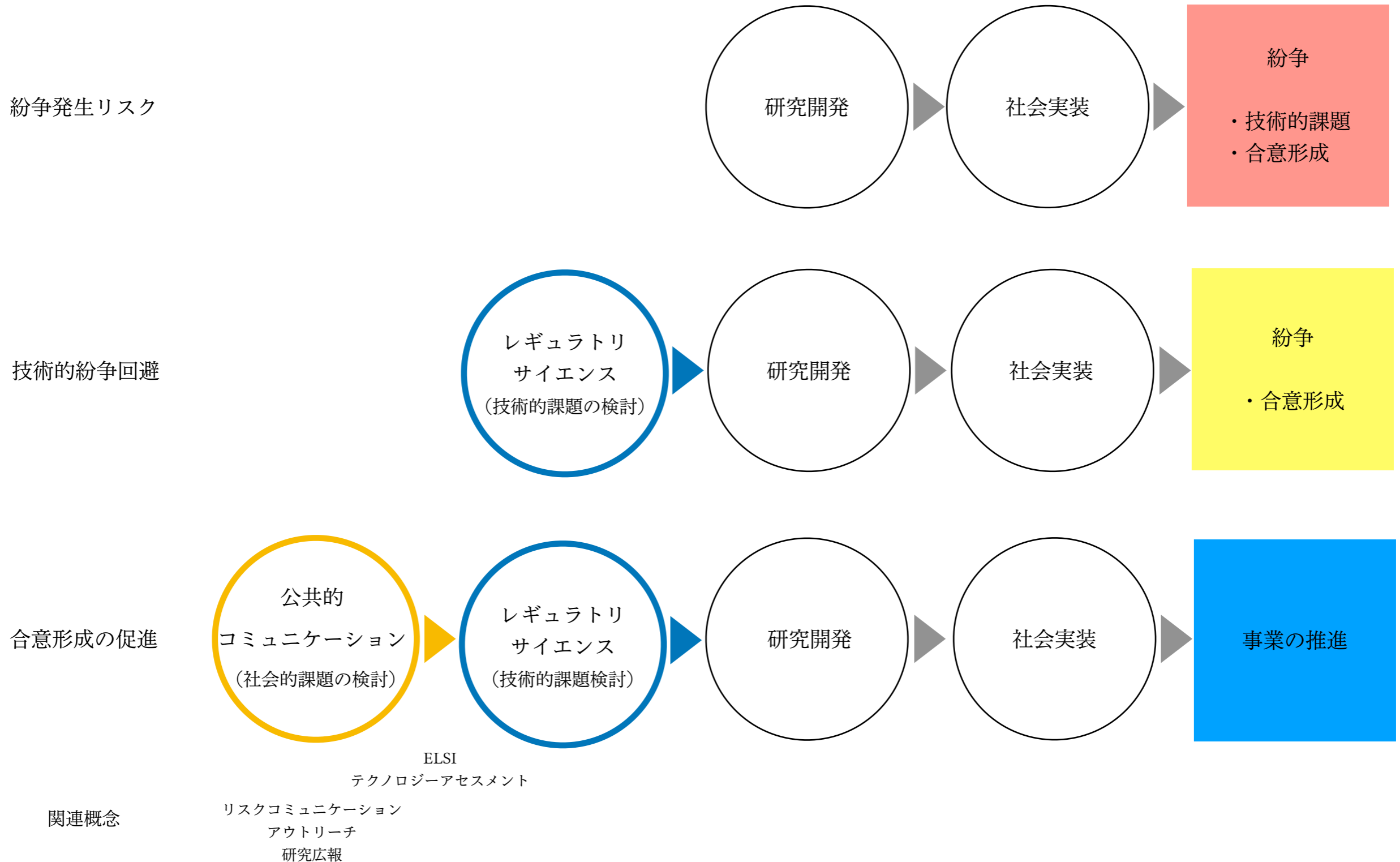


手続き的視点

- ▶ 一部の関与者による閉じた場での議論を開き、意思決定の透明性を高めることができる。
- ▶ 十分な情報の共有と参加の機会により、政策・事業の正統性を高めることができる。
- ▶ 透明性と正統性の担保により、決定に対する受容性、決定の公正性を高めることができる。

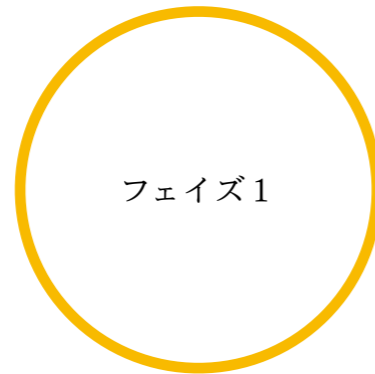
社会実装を意識した研究開発における公共的コミュニケーションの目的とは

注) 組織内、パートナー、行政や資金提供者との関係構築、外部環境における個別の利害調整などのコミュニケーションは別途必要。



フェイズに応じた公共的コミュニケーション

研究開発

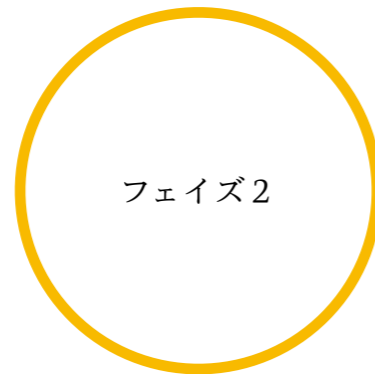


社会実装に結びつく研究開発のためのコミュニケーション

- ・ 事業の周知
- ・ 問題構造の理解
- ・ 意見分布の把握
- ・ 研究開発計画への反映
- ・ ステークホルダーとの関係構築



事業設計

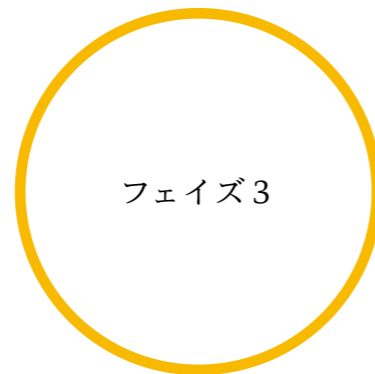


事業設計へフィードバックするためコミュニケーション

- ・ 事業概要の周知
- ・ 事業設計に対する意見の把握
- ・ 事業設計へのフィードバック



社会実装



製品・サービスの利用を促すためコミュニケーション

- ・ 製品・サービスの周知
- ・ 製品・サービスを利用するための支援
- ・ 製品・サービスに関する課題の把握
- ・ 製品・サービスの見直し提案

フェイズ1における公共的コミュニケーション

事業説明会

ワークショップ

事業を周知するとともに、高い関心を持つ人々（高関心クラスター）の類型を明らかにし、質疑応答、期待と懸念の把握を通じて、事業をめぐるコミュニケーションの問題構造を明らかにする。

ヒアリング

高関心クラスターのプロフィール、関心のある 이슈を明らかにし、事業に反対する人々、慎重な意見を持つ人々と良好な関係を構築する。

無作為抽出
アンケート

無作為抽出
ワークショップ

事業説明会、ワークショップ、ヒアリングを通じて明らかになった問題構造を踏まえ、一般的な市民のリテラシー、期待と懸念、意見分布を明らかにする。

公共的コミュニケーションのための技術は存在するか

→ YES

公共的コミュニケーションは技術だけでうまくいくか

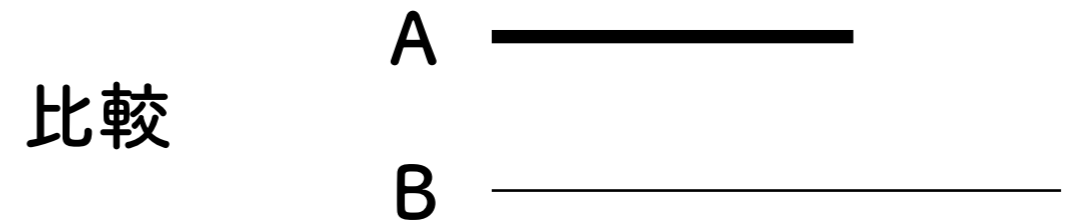
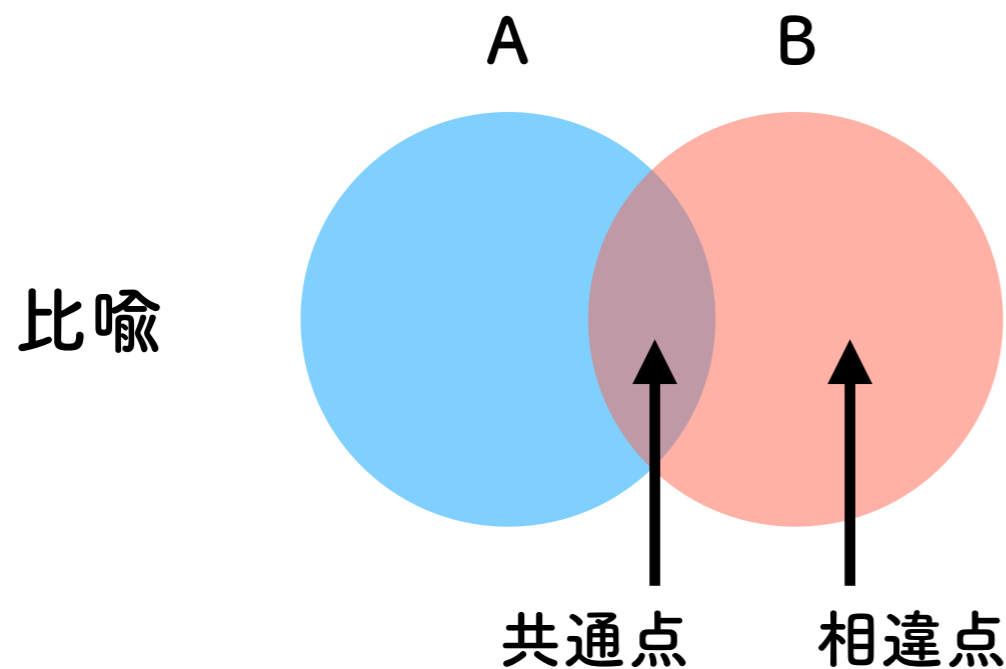
→ NO

公共的コミュニケーションの専門知とはなにか

→ ?

公共的コミュニケーション技術の典型例「比喩・比較」

比喩・比較による説明は、同じ意見の相手には通じやすいが、異なる意見の相手には通じにくいことに留意する。



- ・説明「AはBのようなものだ」
- ・同じ意見の人→共通点に着目→「AはBのようなものだ」
- ・異なる意見の人→相違点に着目→「AとBはまるで別物だ」

- ・説明「Aは、Bより短い」
- ・同じ意見の人→長さに注目→「Aは、Bより短い」
- ・異なる意見の人→太さに着目→「Aは、Bより太い」

リスクコミュニケーションにおける「比較」の扱い

<p>第1ランク (最も許容される)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる2つの時期に起きた同じリスクの比較 ・標準との比較 ・同じリスクの異なる推定値の比較
<p>第2ランク (第1ランクに次いで望ましい)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あることをする場合としない場合のリスクの比較 ・同じ問題に対する代替解決手段の比較 ・他の場所で経験された同じリスクとの比較
<p>第3ランク (第2ランクに次いで望ましい)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平均的なリスクと、特定の時間または場所における最大のリスクとの比較 ・ある有害作用の一つの経路に起因するリスクと、同じ効果を有する全てのソースに起因するリスクとの比較
<p>第4ランク (かろうじて許容できる)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・費用との比較、費用対リスクの比の比較 ・リスクと利益の比較 ・職務上起こるリスクと、環境からのリスクの比較 ・同じソースに由来する別のリスクとの比較 ・病気、疾患、傷害などの他の特定の原因との比較
<p>第5ランク (通常許容できない ・格別な注意が必要)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係のないリスクの比較 (たとえば、喫煙、車の運転、落雷)

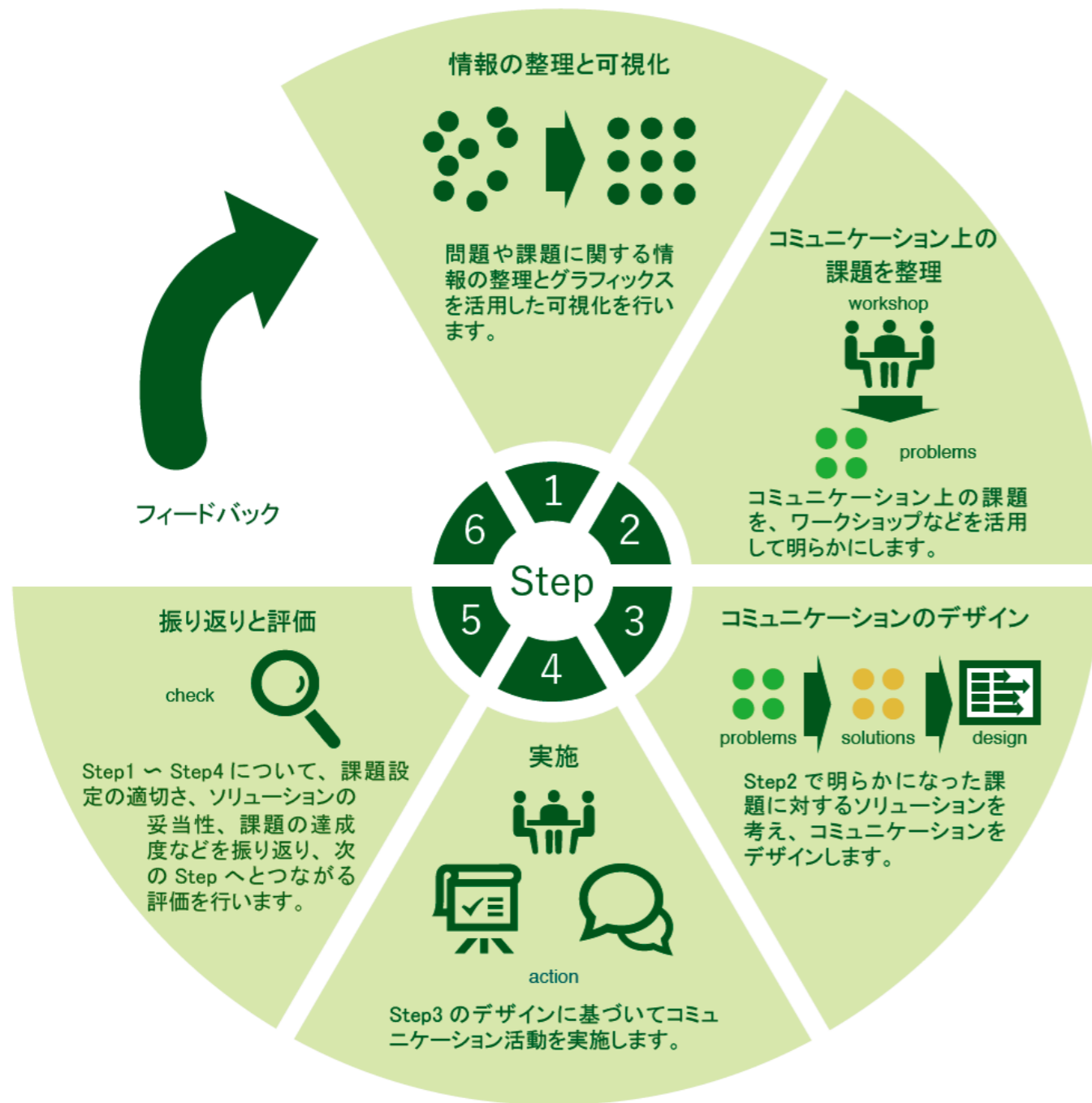
Covello(1989)

公共的コミュニケーションは技術だけでうまくいくか→NO

公共的コミュニケーションに関する7つの覚書 (吉田省子)

1. 公共的コミュニケーションの目的は多様です。説得ではありません。
2. イベントは対象者に合わせて。お仕着せは嫌われます。
3. 公共的コミュニケーションは力の行使です。誰かを傷つけないように注意しましょう。
4. 誰が、何を、どのように伝えるのか。それ次第で、言葉の意味は変わります。
5. 公共的問題の受け止め方は十人十色。科学だけでは決まりません。
6. 「正しい方向に導こう」という気持ちを捨てる。「正しさ」とはなにかを考えるのが公共的コミュニケーションの場です。
7. 一度でできなくても、同じテーマで、同じ人々と場を重ねること。続けることで見えてくるものもあります。

公共的コミュニケーションの専門知とはなにか → ?



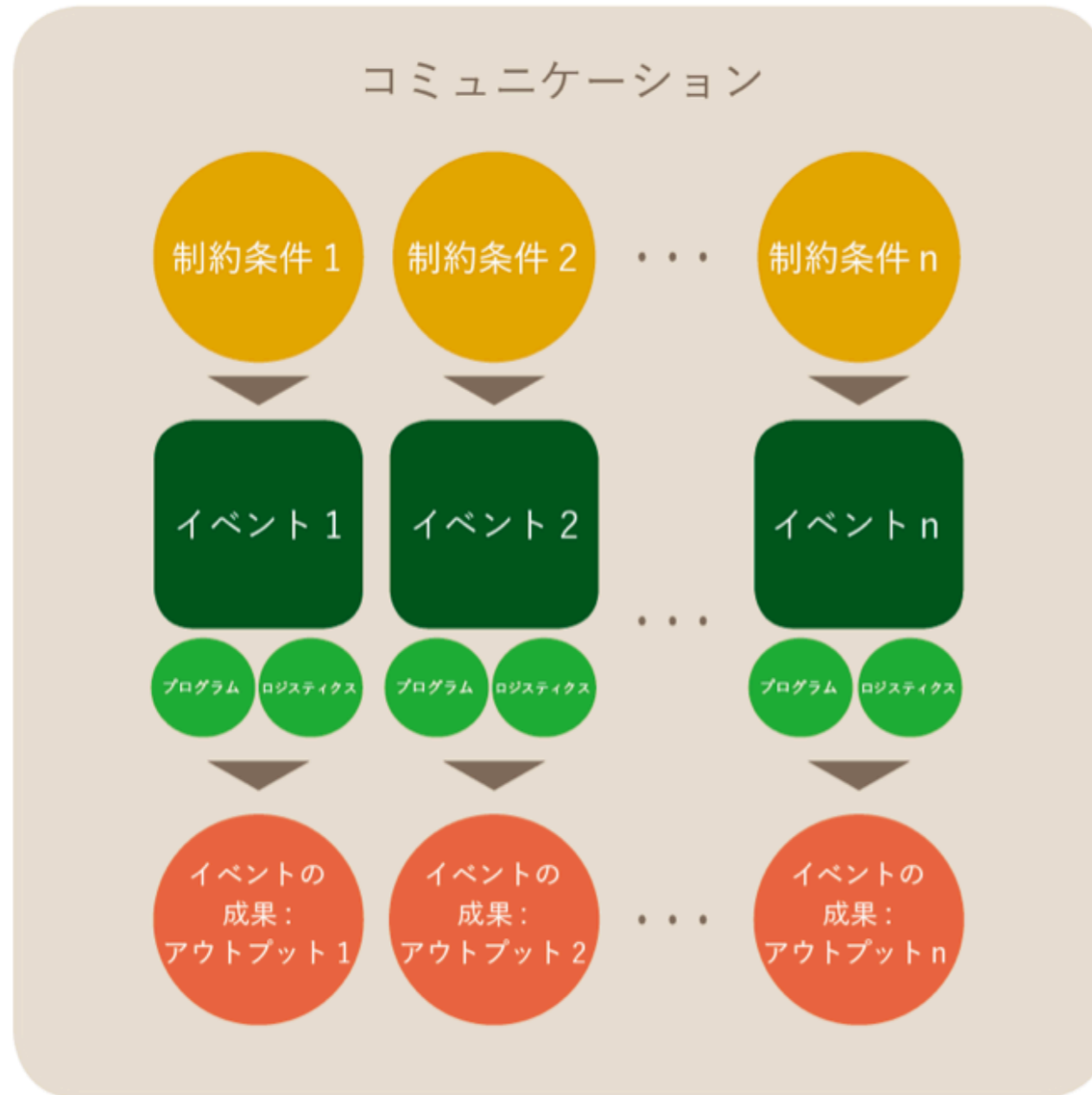
1 コミュニケーション上の課題を整理して、コミュニケーションデザインを行い、適切なフィードバックを行うための知

公共的コミュニケーションの専門知とはなにか → ?

関心喚起・文化的享受	問題・課題に対する関心を喚起する。 問題・課題の知的内容を愉しむ。
教育・啓発・行動変容	主に、リスクとその対処法に関する知識や情報の普及、関心の喚起、行動変容のための啓発・トレーニングを行う。
信頼醸成・相互理解	政府、専門家、市民、事業者、メディア等のステークホルダーの間で互いの信頼や理解を醸成する。
問題・期待・懸念・論点の可視化・議題構築	意見の交換や各自の熟慮を通じて、主題となっている話題について、何が問題で、どんな期待・懸念・論点があるか、何を社会として広く議論し考えるべきかを明確化する。
問題解決・課題達成	個人または集団が直面する問題の具体的解決方法を探る。
未来ビジョンの形成	問題・課題と社会・人間の将来はどうあるべきか、どのような問題・課題を育み、どのような社会に生きたいか、といった未来のビジョンを形成する。
回復と和解	物理的のみならず社会的・精神的な被害からの回復を促すとともに、問題発生から現在に至る経緯を振り返りつつ、関係者間の対立やわだかまりを解きほぐし、和解を進める。

2 課題に応じたコミュニケーションの目的を設定するための知

公共的コミュニケーションの専門知とはなにか → ?



3 コミュニケーションの目的に応じて、イベントをデザインし、ファシリテートするための知

つぎの一步をごいっしょに。

